

## 社会を生き抜く力の養成

～変化の激しい時代の中で自立して社会を生き抜いていくために必要な知識・能力を身に付けられるよう、多様な学習機会(各学校段階など)の連携・接続にも留意しつつ、それぞれの学習機会における成果を保証するとともに教育の質を向上させる。

### (論点例)

- 変化の激しい時代を生き抜くための力はどのようなものか。
- 全ての人々が共通に身に付けるべき力、個人・社会のニーズに応じて身に付けるべき力は何か。
- 上記の力は、学校教育のみで培うものか、社会生活との関わりにおいても培われるものか。
- 上記の力は、測定が可能なものか。

→別紙1

- 高校・大学進学率の増加や学校の役割の多様化など様々な状況変化の中で、学校段階毎の接続が十分に図られているか。
- 「何を身に付けることができたか」を担保するための必要十分な仕組みは何か。
- 成果目標とそれを測定する指標はどのようなものがあるか(数値化することは可能か。)

→別紙2

## 未来への飛躍を支える人材の養成

～「知識基盤社会」が本格的に到来する中で、新たな社会的・経済的価値を生み出すような人材、グローバル化に対応する人材、社会的課題に対応した人材を養成する。

### (論点例)

- 国際的な市場環境で活躍できる人材の創出に向けた方策は何か。
- 新たな社会的・経済的価値の創造をもたらす人材の創出に向けた方策は何か。
- そのような人材に必要な能力は全ての人々が身に付けるものか、特定の人々が身に付けるべきものか。

→別紙1・2

## 学びのセーフティネットの構築

～社会参加・自立に必要な知識・能力を一人一人が身に付けることができるよう、誰もが個性、能力、ライフステージ等に応じて「未来への先行投資」としての教育にアクセスするための環境を整備する(学習機会の確保や施設整備等)。

### (論点例)

- 経済状況の悪化、所得格差の増大、社会の安定性・一体性のほころび等が指摘される中で、セーフティネットとしての教育の役割をどのように捉え、どの程度の水準が求められるか。
- 教育の公的性格を踏まえ、教育費用は誰がどのように負担すべきか。
- また、各学校段階など学習機会毎に上記の考え方は異なるか。
- 経済的・地理的・時間的制約の軽減等をどのように図るか。

→別紙3

## 絆づくりとコミュニティの再構築

～学習活動を媒介として多様な人が集い協働するための体制・ネットワークの形成など社会全体の教育力の強化や、個人が主体的に社会参画し相互に支え合うための環境を整備する。

### (論点例)

- 人が社会を作り、社会が人を作るという好循環に向けてどのような方策が考えられるか。
- 価値観の多様化・異文化との共生、都市化・過疎化の中での絆づくりや、それに向けた教育上の方策は、どのようなものか。
- 学校、家庭、地域との関係、教育委員会の運営等についてどのように考えるのか。

→別紙4

# 4つの横断的視点から見た現在の政策の実施・検討状況について(案)

参考

社会全体の連携を深めつつ、生涯学習社会の実現に向けて、一貫した理念に基づく各発達段階の接続・連携が図られているか

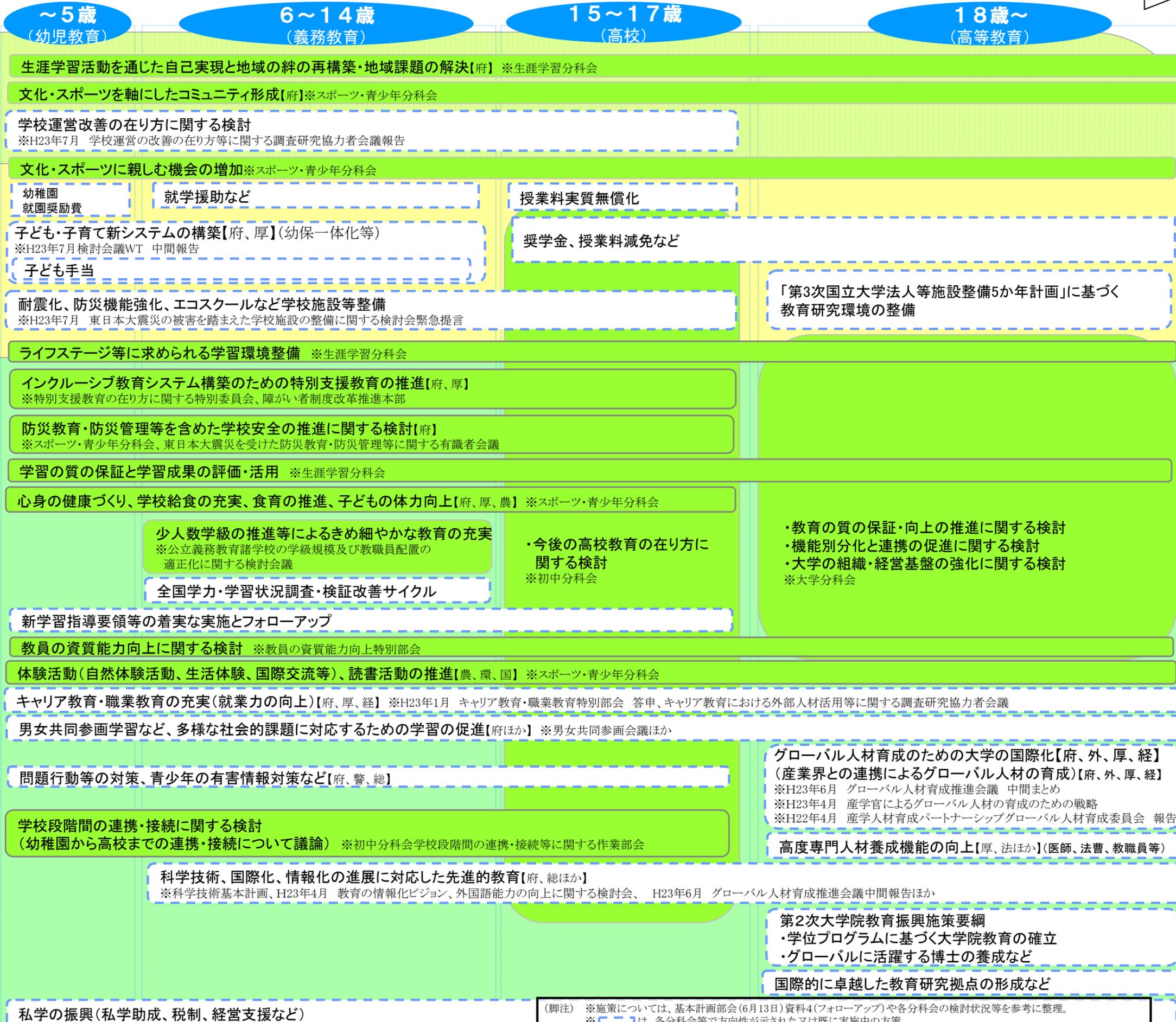
## 総会、計画部会でこれまで出された教育上の課題の例

- 教育委員会・学校の機能・体制強化
- 家庭の教育力向上
- 耐震化、学校等の防災機能強化
- 防災教育の充実
- 大学の質の保証、機能別分化
- 教員の負担軽減
- キャリア教育の充実(特に女性に対して)
- 男女共同参画のための教育、女性の力の活用
- 社会への参画を促す主権者教育の充実
- 規範意識や思いやりの心など豊かな心の育成
- 高校教育改革
- 各学校段階の接続
- 大学入試の在り方
- 国家的人材の養成
- 内向き志向の打破
- 秋入学、ギャップイヤーの活用

学びの場・学びの機会  
(多様な学習機会の確保、安心安全な学習環境の整備)

社会を生き抜く力の養成  
(教育の質の向上やその保証)

未来への飛躍を支える人材の養成  
(グローバル人材、イノベーションをもたらす人材、社会的課題に対応した人材の養成)



(脚注) ※施策については、基本計画部会(6月13日)資料4(フォローアップ)や各分科会の検討状況等を参考に整理。  
 ※ [ ] は、各分科会等で方向性が示された又は既に実施中の方策。  
 ※ [ ] は、各分科会等で検討中又は検討予定の方策。  
 ※ [ ] 内は、想定される主要な連携省庁。  
 (府:内閣府、厚:厚労省、警:警察庁、総:総務省、経:経産省、農:農水省、法:法務省、外:外務省、環:環境省、国:国交省)

これまで提言された様々な資質・能力について(イメージ案)

➡ **変化の激しい社会にあって、個人の自立と活力ある社会の形成を実現するためには、どのような資質・能力が必要か。**

子どもから大人まで

発達段階、学校段階の特質に応じた育成

「**キー・コンピテンシー**」(平成11年～14年OECD「能力の定義と選択」(DeSeCo)プロジェクト)

- ・OECDが主導し、多数の加盟国が参加したプロジェクトで国際的合意。(生徒の学習到達度調査(PISA)(3年ごと)や、国際成人力調査(PIAAC)(5年ごと)で、これらの能力の一部に関する各国の状況を測定)
- ・グローバル化と近代化により、多様化し、相互につながった世界において、人生の成功と正常に機能する社会のために必要な能力。

①～③の核となる  
「考える力」

- ①言語や知識、技術を相互作用的に活用する能力:「言語、シンボル、テキストを活用する能力」「知識や情報を活用する能力」「テクノロジーを活用する能力」
- ②多様な集団における人間関係形成能力:「他人と円滑に人間関係を構築する能力」「協調する能力」「利害の対立を御し、解決する能力」
- ③自律的に行動する能力:「大局的に行動する能力」「人生設計や個人の計画を作り実行する能力」「権利、利害、責任、限界、ニーズを表明する能力」

「**総合的な「知」**」(平成20年中教審答申(新しい時代を切り拓く生涯学習の振興方策について～知の循環型社会の構築を目指して～(答申))

- ・「知識基盤社会」の時代において、様々な変化に対応していくために必要な力。狭義の知識や技能のみならず、自ら課題を見つけ考える力、柔軟な思考力、身に付けた知識や技能を活用して複雑な課題を解決する力、他者との関係を築く力、豊かな人間性など。

幼児教育、義務教育、高校教育

「**生きる力**」

(平成8年中教審答申(21世紀を展望した我が国の教育の在り方について(第一次答申)))(別紙参考1・2)

- ・国際化や情報化の進展など、変化が激しい時代において、いかに社会が変化しようとする必要能力。「知・徳・体のバランスの取れた力」と定義。

※学校教育法において、①基礎的な知識・技能、②これらを活用して課題を解決するための思考力・判断力・表現力、③主体的に学習に取り組む態度と具体化。

①**確かな学力**

基礎・基本を確実に身に付け、いかに社会が変化しようとする、自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力

②**豊かな人間性**

自らを律しつつ、他人とともに協調し、他人を思いやる心や感動する心など

③**健康・体力**

たくましく生きるための健康や体力

大学

「**課題探求能力**」

(平成10年大学審議会答申(21世紀の大学像と今後の改革方策について-競争的環境の中で個性が輝く大学-(答申))

- ・主体的に変化に対応し、自ら将来の課題を探求し、その課題に対して幅広い視野から柔軟かつ総合的な判断を下すことのできる力

「**学士力**」(平成20年中教審答申(学士課程教育の構築に向けて(答申)))(別紙参考3)

①**知識、理解**

専門分野の基礎知識の体系的理解、他文化・異文化に関する知識の理解、人類の文化・社会と自然に関する知識の理解

②**総合的な学習経験と創造的志向**

獲得した知識・技能・態度等を総合的に利用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力

③**汎用的技能**

コミュニケーションスキル、数量的スキル、情報リテラシー、論理的思考力、問題解決力

④**態度、志向性**

自己管理能力、チームワーク、リーダーシップ、倫理観、市民としての社会的責任、生涯学習力

大学院

「**大学院に求められる人材養成機能**」

(平成17年中教審答申(新時代の大学院教育-国際的に魅力ある大学院教育の構築に向けて-(答申))

①**創造性豊かな優れた研究・開発能力を持つ研究者等**

②**高度な専門的知識・能力を持つ高度専門職業人**

③**知識基盤社会を多様に支える高度で知的な素養のある人材**

**社会的・職業的自立、社会・職業への円滑な移行のための「基礎的・汎用的能力」**

(平成23年中教審答申(今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について(答申)))(別紙参考4)

- ・「人間関係形成・社会形成能力」「自己理解・自己管理能力」「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」。

「**イノベーション創出に向けて必要な資質**」(平成19年閣議決定長期戦略指針「イノベーション25」)

- ・「困難に立ち向かいそれを現実のものにしようとするチャレンジ精神」「既存の枠、常識にとらわれない、多くの価値観から生まれる高い志」。

「**グローバル人材に必要な資質**」(平成23年グローバル人材育成推進会議中間まとめ)

- ・「語学力・コミュニケーション能力」「主体性・積極性、チャレンジ精神、協調性・柔軟性、責任感・使命感」「異文化に対する理解と日本人としてのアイデンティティー」及び「幅広い教養と深い専門性、課題発見・解決能力、チームワークと(異質な者の集団をまとめる)リーダーシップ、公共性・倫理観、メディア・リテラシー」など。

(参考)上記のほか、これまで提言されてきた主な資質

社会参画の観点

人間力(平成15年人間力戦略研究会(内閣府))(別紙参考5)

⇒ 「知的・能力的要素」「社会・対人関係力的要素」「自己制御的要素」の3つの要素で構成。

産業人材の観点

社会人基礎力(平成18年社会人基礎力に関する研究会(経済産業省))(別紙参考6)

⇒ ①前に踏み出す力(アクション)【主体性、働きかけ力、実行力】 ②考え抜く力(シンキング)【課題発見力、計画力、想像力】  
③チームで働く力(チームワーク)【発進力、傾聴力、柔軟性、状況把握力、規律性、ストレスコントロール力】

【検討の視点の例】  
・これらの資質能力は、すべての人に求められるのか、特定の人に求められるものか。  
また、学校教育のみで培うべきものか。もしくは、地域社会の生活との関わりにおいても培われるものか。  
・どのような政策が必要か。

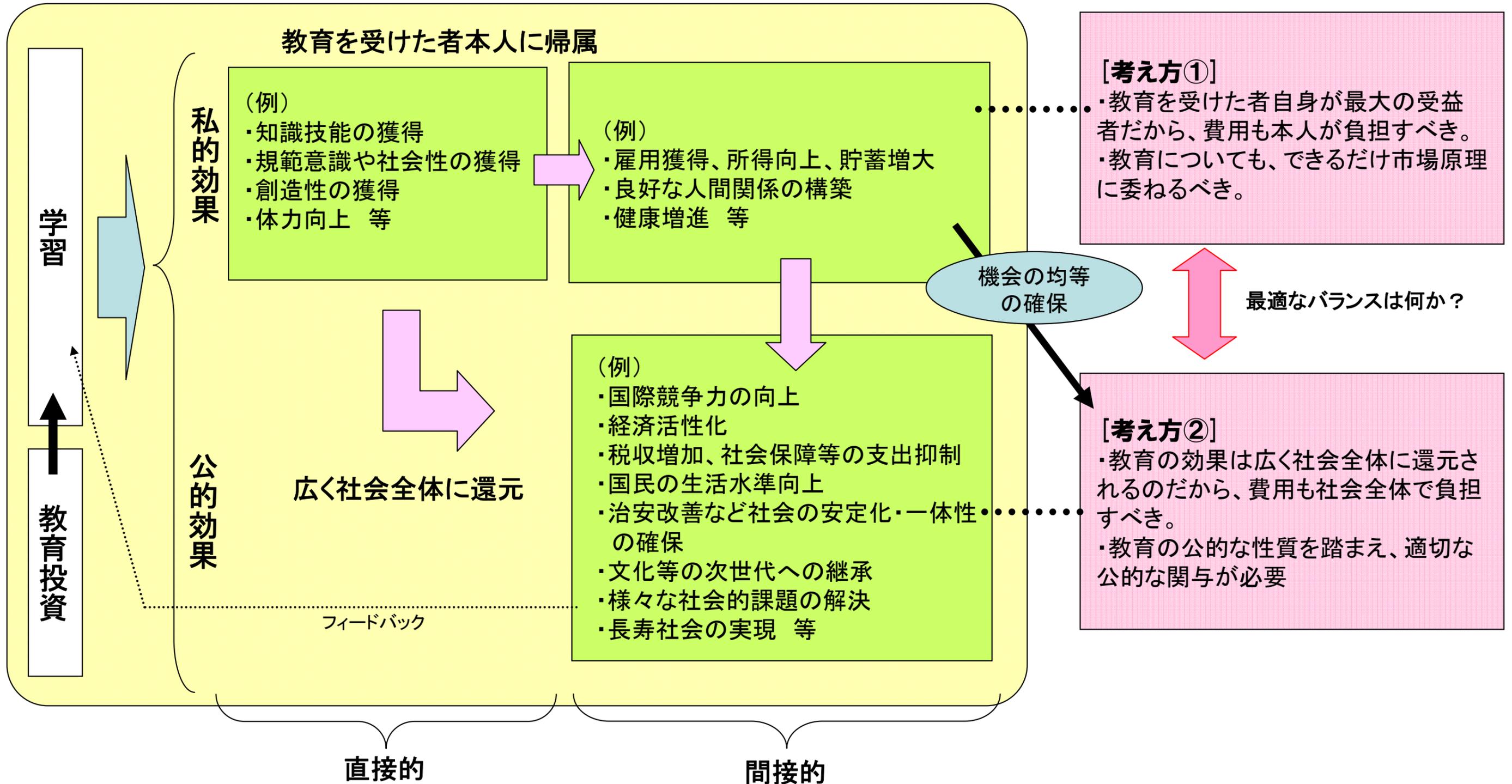




# 教育の費用負担について

## (様々な社会背景が影響)

生産年齢人口・消費人口の減少、国際競争力の低下、経済規模の縮小、社会格差増大・固定化、サービス産業化、雇用の流動化、エネルギー・環境など地球規模の課題、財政状況の悪化 など



上記の考え方も参考にしつつ、各学校段階など学習の機会毎の教育費負担のバランス、教育上の方策(教育費の負担軽減、アクセスの確保、教育の質の向上、その他諸条件の整備)を整理する必要がないか。

<基本的な考え方>

- ①一人一人の「**社会を生き抜く力**」をはぐくむ（地域の望む人材像の実現）
- ②教職員、保護者、地域住民等が**ともに成長**（地域の教育力向上）
- ③学校・公民館等を核とした**地域ネットワークが形成される**（地域の活力向上）

- ④地域コミュニティの**基礎力が高まる**（地域の礎の構築、地域課題の解決）
- ⑤多様な人々の交わりが**イノベーション**を生む。
- ⑥人々の支え合いが**セーフティネット**にもなる。

主として学校教育

（これまでの主な取組）

コミュニティ・スクール(学校運営協議会) (平成23年4月現在:789校)  
 学校支援地域本部 (平成23年度:2,659箇所)  
 放課後子ども教室 (平成23年度:9,733校)  
 総合型地域スポーツクラブ (平成22年7月現在:3,114クラブ) 等

主として社会教育

地域社会、企業等における人材育成

文化・スポーツを軸にしたコミュニティ形成

学びのニーズと支援をマッチングさせる仕組み作り  
 (子どもの学び支援ポータルサイト、ブランドギビング信託など)

青少年の体験活動や読書活動の推進を通じたコミュニティ形成

家庭教育・子育て支援など家庭の教育力向上支援

地域とともにある学校づくりの推進

学校運営の改善等に関する調査研究協力者会議報告「子どもの豊かな学びを創造し、地域の絆をつなぐ～地域とともにある学校づくりの推進方策～」(平成23年7月)

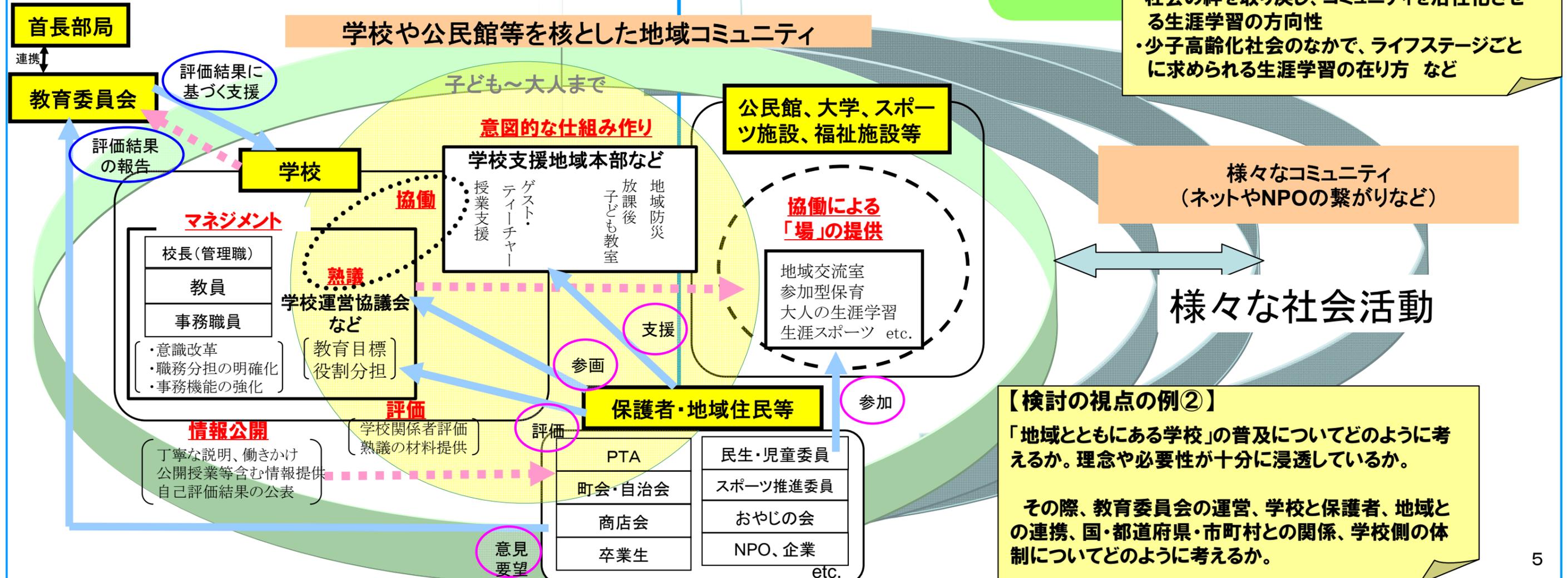
- ・学校は、地域と目標を共有し、地域と一体となって子どもたちをはぐくんでいく「地域とともにある学校」を目指す。
- ・子どもを中心に据えた学校と地域の連携は、子どもの育ちにとどまらず、大人たちの学びの拠点を創造し、地域の絆を高め、地域づくりの担い手を育てることにつながる。
- ・学校は地域の課題を解決するための「協働の場」となることで、「地域づくりの核」となる。

生涯学習活動を通じた自己実現と、地域の絆の再構築・地域課題の解決

⇒ 生涯学習分科会にて検討中

【検討の視点の例①】

- ・社会の絆を取り戻し、コミュニティを活性化させる生涯学習の方向性
- ・少子高齢化社会のなかで、ライフステージごとに求められる生涯学習の在り方 など



【検討の視点の例②】

「地域とともにある学校」の普及についてどのように考えるか。理念や必要性が十分に浸透しているか。  
 その際、教育委員会の運営、学校と保護者、地域との連携、国・都道府県・市町村との関係、学校側の体制についてどのように考えるか。